

男女共同参画社会とは「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。

ある保育園の子育て広場へ行った時、たまたま男性の保育士さんを見かけ驚いてしまいました！子育ては、女性がするものと勝手に思い込んでいた自分にもびっくり。こんな事がきっかけで子育てについて考えてみることにしました。

## 男性保育士さん がんばる！



子供と遊びに行った保育園の園庭をみると、想像以上の男性が働いていました。保育園は赤ちゃんもいるし、異変を察知するのは、女性の方が向いていそうだと私自身の固定観念の強さにまた驚くとともに、男性がなぜ保育士になろうと思ったのか気になり、市内私立保育園の男性保育士の方にお伺いしました。

男性保育士さんへのアンケート

- 問1：なぜ、保育士になろうと思ったのですか。
- 問2：保育士としてのやりがいや、やって良かったことは何？
- 問3：保育士として苦勞していることはありますか。

保育士歴5年未満/20代

- 答1：私に兄弟がいて、幼い頃から弟のお世話をすることが好きで、父母が出かけている時には、代わりとなって行っていたからです。
- 答2：制作の準備をしている時は、大変と思う時があります。実際に準備してきたもので、子供達と行うと子供達は楽しく行ってくれるので、やって良かったと思います。
- 答3：職員同士の人間関係がとても難しいです。女性は言葉にしなくても、気付いて欲しい事が多くあるため、難しさを感じます。男性と女性の違いで、出来る事と出来ない事があります。視野の違いや何事にも、気付ける早さも違います。このような事に難しさや苦勞をしています。

保育士歴10年未満/20代

- 答1：小さい時からピアノを、習っていて将来の職に活かしていきたいと思い、進学先を保育科にした。
- 答2：卒園児の担当が経験出来た事。出来なかった事が、少しずつ出来るようになって喜ぶ子供の姿が、見る事が出来た。
- 答3：女性が主な職場なので、見方も違い、感じ方も違うので、思った事と違う事が多い。

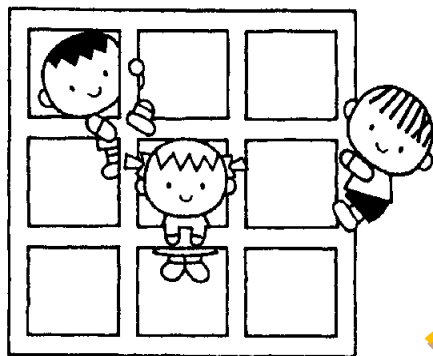


保育士歴5年未満/20代

- 答1：子供が好きで、子供の成長に関わる仕事に就きたいと思ったからです。
- 答2：子供の成長を肌で感じ、笑顔を見ることができた時です。
- 答3：女性の方が多い職場なので、気を遣うことがあります。

保育士歴10年未満/30代

- 答1：保育園時代のクラスの担任に憧れて、保育士を目指しました。
- 答2：年齢ごとの子供達の成長をそばで、見守ることができ、保護者の方と一緒に喜びを共感できること。



保育士歴20年未満/40代

- 答1：近所の小さい子供を面倒みていて、中学生の時に、テレビで紹介されているのを見て。
- 答2：笑顔で「抱っこ」を求められた時。子供に遊びの続きを求められた時。
- 答3：それほど保育士という職業が、社会で「大変、大切な仕事である」という事が、認識されていないこと。

保育士歴15年未満/30代

- 答1：子供が好きということ为前提として、遊ぶこと、身体を動かすこと、唄うこと、面倒をみるのが好きだったことから、母親がボランティアで人形劇に携わっていたお手伝いをした際に、子供達が喜んでいる姿を見て、子供と関わる仕事を目指しました。
- 答2：毎日、子供達と関わり、笑顔を見ることで、元気・パワーをもらえます。辛いこと、大変なことがあっても子供達がいるからこそ、頑張ることが出来、前向きになれます。
- 答3：子供のために、職員がどう効率よく動けば良いかを、共通意識を持って行動が出来るようにすることが難しく感じる場合があります。

保育士歴10年未満/30代

- 答1：母親が行っていた学童保育の手伝いをして、子供達と関わる仕事に興味をもちました。それから保育園に、自主的にボランティアに行くようになり、改めて保育士になろうと思いました。
- 答2：運動会や発表会などの行事は大変ですが、その分、子供達からパワーや感動をもらえる所が、保育士としてのやりがいに繋がったり、保育士をやっていてよかったと感じる所です。また、子供の成長に寄りそっていくことができる仕事なので、新しいことができるようになった時、一緒に喜べる所が、保育士をやっていてよかったと思います。
- 答3：女性が多く、気を使わなければいけない事が、時々ある事です。また、まだまだ、男性保育士が少ない社会なので、男性保育士として相談の場がないこと。オムツ替えを断られたり、保護者との接し方なども、異性がほとんどなので話す内容によって、別の職員に代わってもらうこと。

保育士の方にお伺いし、長い間、勤務されている方がおり驚きました。女性が多い職場環境や、仕事のやりづらさに苦勞されているようです。それでも仕事を選ばれたのは、本当に子供が好きでやりがいを感じる方々なのだと感じました。保育園の需要も増え、男性保育士さんも増える時代ですね。元気でパワフルに、これからも保育に携わって欲しいと思いました！

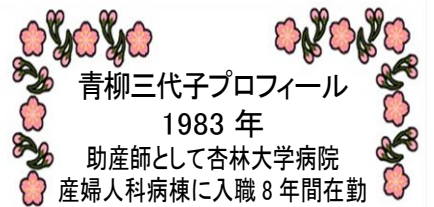
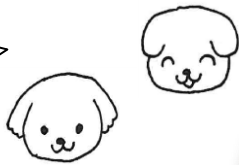
## 編集委員のつぶやき



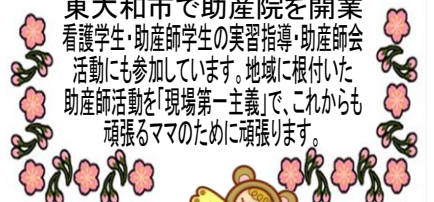
### ★少し前の子育てについて★

子供ができて分かったことは1人で産み、産後を過ごすことは無理だということです。昭和1ケタ生まれの母は東京下町育ちです。下町は、核家族がほとんどでどうやって産後を過ごしたか聞いてみると、自分の母や姉が手伝いに来てくれたり、身内がいなくても、近所の人が進んで手伝いに来てくれたそうです。昔からそれが自然で命をつないできたのだと思います。悩んだり疲れたママ！1人でできなくて当たり前。保健センター、子育て支援センター、保育園、ママサークルなど。悩みを相談できる場所がいっぱいあるのでぜひ行ってみたいはかがでしようか♪♪

# 助産師さんにインタビュー



**青柳三代子プロフィール**  
 1983年  
 助産師として杏林大学病院産婦人科病棟に入職8年間在勤  
 1991年  
 第2子を出産後、ファウンズ産婦人科に勤務13年間在勤  
 2005年  
 武蔵野赤十字病院に勤務3年間在勤  
 2008年  
 西東京市赤ちゃん訪問を開始して地域活動を始める。東大和市(現在はしていません)・東村山市の赤ちゃん訪問などをしながら妊娠中からお産後のママと赤ちゃんのケア提供をしています。



2009年  
 東大和市で助産院を開業看護学生・助産師学生の実習指導・助産師会活動にも参加しています。地域に根付いた助産師活動を「現場第一主義」で、これからも頑張るママのために頑張ります。



現在、多くの女性が地域で活躍しています。今回は市内で日夜、精力的に活動されている助産師の青柳さんを訪ね、閑静な住宅街の一角にある一軒屋の助産院におじゃまして、お話を伺ってきました。(●^o^●)

## 助産院と病院の違いは？

妊婦健康診査からお産まで助産師さんが診てくれます。

医療(陣痛誘発・会陰切開など)の助けが必要のない健康なお母さんが、助産院でお産をすることができます。薬(止血剤・点滴などの救急薬以外)は使えないので妊娠中はしっかり体を作ってもらい、安産していただく為にじっくりゆっくり時間をかけて診察します。産後のケア、赤ちゃんの体調や育児相談もでき、助産師さんは母子の命を預かる責任重大な仕事を行っています。助産師さんはお腹を触ると赤ちゃんの様子が分かるんですよ。また、この助産院は災害時には赤ちゃんステーション(※)になり、助産師会のメンバーと共に母子の体調をみたり、必要なケアの提供をしています。母子に何らかの異常が起こって助産院での出産が困難になり、病院での出産となった場合は、契約している嘱託医で医療を受けます。

※市と平成27年3月26日に災害時における妊産婦等支援活動に関する協定を結びました。

## 男性の助産師はいるの？

男性助産師はいないです。その理由には万が一、『性的な事故が起きるかもしれない』『世話をし欲しい人もいないだろう。』ということがあるようです。今は男性にも機会はあるようですが、助産師になる為にはお産を10例取らなければ国家試験は受けられない為、お産を受け入れてくれるお母さんがいるかというところでつまずいてしまいます。男性がいてもいいと言う理解ある病院もあります。しかし、性的な事故が起きてしまった場合、どう対処し信頼を取り戻すかが問題になり難しい環境にあります。

## 方針や心がけていることは？

安心・安全が一番。助産院でお産ができるかは、まず、母体の体調を先に考えてしまいますが、それはもちろんの事、院内の安全も考えています。不審者が入らない事。あたり前とを考えてしまいますが、しっかりとしたセキュリティだから通うことができますね。提携する病院も、助産院でお産していて異常があった場合、すぐに処置できる病院が母子の安全や体調を適切に判断し、連携がとれるかをお願いしています。

## どう社会へ働きかけたいのか。どんな存在でありたいか？

生命が誕生する現場にいるからこそ伝えられると積極的に活動しています。今は第六小学校で4年生を対象に「命の教育」を行っていて、「生命の誕生から男女の変化について」「大事な命、自分の身は自分で守る」「命を通して男の子、女の子も平等」といったことを伝えています。教育が一番。元気な母親と元気に育つ子供達が頑張れる社会が良いなあ(^\_^)



## どういう方が助産院にくるのか。共通点は？

病院よりも自分に時間をかけてくれるのではない。医療行為に疑問を待っている。(自分がほったらかしにされた感じがする。)1・2度お産を経験して「なんとなく産めそう」と感じている経産婦が多い。病院より分娩費用が安いので選ぶママも・・・。



## 助産院に来たご夫婦をみてどう思う？

家族みんなでお産に参加したいと思って来ている人が多い。けれどまだ、お産が大変なことを分かっていない人が多い。(10ヶ月自分の体で、胎児を育てて、陣痛に耐えてお産をする事はすごい。)「元気に生まれて当たり前」ではなく、「元気に産んでくれてありがとう」「生まれて来てくれてありがとう」と、ママの心に声を掛けられる人は少ない。その中でも頑張っているパパもいます。できるだけ、いいご夫婦になれるようにアプローチしています。

## 編集後記

子育ては女性がするものと心の奥で決めつけていた私ですが、改めて考えるとやはり夫婦で行うものです。お父さん役の保育士さんも必要なのではと思いました。今後、家庭での子育ては、女性が働く家庭も多く夫婦で協力して行わなければなりません。もはや昭和な家庭では時代遅れです。お父さんに『お母さんになれ』ということではないです。お父さんはお父さんらしく、お母さんはお母さんらしくそのまま。コミュニケーションの時間をとり、いい家庭環境で子どもを育てなければなりません。今後の課題は男性は『察する力の強化』女性は『解決策(夫や子どもの教育)を実行する』ことかなと思いました。夫婦が充実しているなら家庭は円満、家庭の円満は日本の活力になります！男女の枠にとられず、相手を尊重し思いやりのある関係になればいいなと思いました。(A・K)

～男女共同参画講座へ参加しました～  
 『家事シェア』  
 イクメンという言葉がありますが、子育てはもちろん家事も一緒に行うというものでした。家事を担当制にせず、2人で同時に行うというものでした。ママが食事の支度をしている間、パパはテーブルの準備・片付けをするなど。特に、出産後のママは赤ちゃんの世話で夜も寝られませんが、ショックな事に他殺で亡くなる被害者が一番多い年齢は、0歳児なのだそう。疲れたママを支えるのは一番近くにいるパパです。ここでママの支えになるかならないかで、子供の出生率や離婚の割合が変わるそうです！！まずは、お互い話し合うことから始めましょう。紹介された魔法のシートはそれぞれの夫婦に合った家事の割合を導いてくれます。興味ある方は“夫婦が本音で話せる魔法のシート”で検索してみてください。